

りまで致しますよ」

とにこくしていらしつた。

食後の散歩は私達の娛樂の一つだ。夕暮きの町を離れた西片町を、から橋の邊から一週するのは本舎に居ては味ひ得ぬ所である。學者町の夕暮・薄明の光に表札を讀むのも一種の興味がある。時には静かな琴の音も流れ来る。夢の様なローマンスを思ひながら、はた勝手な熱を吹きながら二人三人、このゆかしい通を占領し得るは實に嬉しい。

黙學の鐘がなる。暫くすると建物全体が沈黙に入つて了ふ。世界はたゞ自分ある許り、稍獨座に近い感が得られないでもない。ハラリと返す貢の音、快く走るペンの音、其音に一輪ざしのひなげしがゆらぐ。この静けさとこのロマンテックな花の匂とが、しつくり合つてここに森川町の夜の氣分があらはれる。あゝどうして半町出れば瓦斯の灯がかかるよふ電車道があると思へよう。終りの鐘がなる。塵拂ふとて觸れる電燈の球のぬ

くもり。私達は顔を見合せて静かに笑ふ。樂しげなさゝめきが洩れて来る、お隣か、食堂か、沈黙は柔らかさとなつかしさとで色付けられる、而かも尙中心は依然として靜である、やがて消燈の偉大な深い沈黙が、のつそりやつて来る、窓は一つ／＼暗の中に融け去つて七時間の深い睡に入つ了ふ。(5.26.) (S)

## (二) 女子教育に關するもの

明治

○育成會實驗教育叢書第四編	同文館	三二	二	二五
○下田次郎女子教育	金港堂	三七	一二三	〇〇
村上專精女子教育管見	金港堂	三八	二	四五
澤田順次郎女子教育論	讀賣新聞社	四〇	一〇	四五
○谷下田次郎譯女子の本分	金港堂	四一	八	三〇
小野竹三女子教育に就いて	六合館	四二	二	
西山慈治お花は如何にして教育すべきか	金港堂	四四	七	三五
○谷下田次郎譯女子の本分	金港堂	四一	一一一	〇〇
大木太藏譯女子教育論	金港堂	四二	二	六〇

(94)

もと存じ申し候

イ、字體は楷 一體にては余に限られて不便ならずやと考へ居り候只三体までの必要はない楷草の二體位にては如何にやと存じ候ロ、字の大きさにつきては校長先生の御説の通りりと切に存じ候されど新入學して一年間は生徒は大きく習はしむる方よろしからんと存じ候

作文は自分が教へて見て切に複雑なるをうるさく感じ申候校長先生の御説御尤と存し居り候

■山口縣 佐藤たみ子

- 一、郷土の地理に關しては當地等は何等見るべきものも之無くやはり地名辭書位のものに候はん歴史は南部史要(原敬著)平泉誌などいふもの之有るのみ其他言語文學土俗等の編輯物なども見あたらす他に比して非常に未開の様感じ申候二、無し
- 三、社會教育としては通俗講演會時々開かれ先日も久留島先生を聘し候其他は之無く候
- 四、習字は私は大体に於て校長先生の御説御もつと

一、柳井案内 神田靜江氏校閱 鎌倉孤燈編  
山口縣各地の分はそれ／＼各校より報導あるべきと考へられ候につき當地の分文申上候

二、無し

三、佛教婦人會 放光婦人會 柳井婦人會は企圖中

にて近々開かるゝ筈に候

四、習字は細字練習に重きを置き作文は國語教科等と相關連して課するも下級生には書牘文の國語べきと考へられ候につき當地の分文申上候

二、文を多くし上級生には普通文と半々にし其十分

(95)